
奥手？積極的？ 貴女は、どっち？

春馬令

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奥手？積極的？ 貴女は、どっち？

【Nコード】

N1708N

【作者名】

春馬令

【あらすじ】

彼女いない歴〃年齢の青年。だが、顔に問題があるわけではない。部活に熱中しすぎて、興味がなかっただけ。でも、相棒は彼女に飢えていた。そんなとき、スポーツセンターに現れた美少女二人！どうする？貴方は、奥手の子が好きですか？それとも、積極的？（超ベタベタなやつです）

あの夏は、もう二度とこない。

「暑い……」

夏本番に入りかけている7月後半。高校2年の俺、喜多郷三影（きたさとみかげ）は現在、猛暑を肌で感じている。

「ミカゲ、今日はもう帰ろうぜえ」

そう俺に言い寄ってくるのは、小学校の時から腐れ縁「世間ではこうゆうのを幼馴染と言っらしい」の埼玉相馬（さきがわそうま）。どちらも女はいない。正直なところ、二人とも顔はいい……。とは思う。でも、彼女ができたことがない。元々、マイナーな卓球部に二人とも入っていたこともあり、女子と触れ合うこともなかった。だから、今日は夏休みを利用してプールにきたわけなんだけど……。

「なぐんで、親子が多いんだよお！」

相馬が自転車をこぎながら叫ぶ。ここが帰り道で、川沿いだったから誰もいなかったが、正直迷惑。

「仕方ねーよ。高校になっっていくなりプール行くのは、俺らくらいのもんだろ」

「でもよ。少しくらいいてもいいじゃん？俺はビキニ目的で行ったのにさ」

「ビキニってお前……。ビキニだったらいっぱいいいたじゃん」

俺は相馬に若干引き気味になりながらも、会話を続けた。

「だあくかあくら！若い娘のが見たかったのぉ！」

「……………」

もう、出る言葉もない。

「スポーツセンター寄ってく？」

不意に、相馬が呟いた。スポーツセンターといえば、俺らがよく行く卓球場を完備したスポーツ専門店のことだ。部活でもよく使う場

所で、店員さんとは友達状態だ。

「別にいいけど、俺、ラケット持って来てないぜ」

「大丈夫。前にいったときにお前の前のラケット拝借しといたからあつ……。無くなつてたと思つてたラケット、こいつが犯人か。」

「ふざけんよなあ、俺、あれまだ使おうと思つてたのによ」

「ゴメン、ゴメン。でも、そのおかげで今日はできるつてわけだからさ」

「まあ、いいけど」

俺は冗談混じりに相馬にキレる。んで、それを相馬が軽く流す。それが、俺らの『いつも』だった。

スポーツセンターにつき、卓球台を1台借りた俺らは、卓球場に入るなり自動販売機に足を運んだ。

「えつとおゝ何にすつかな？」

夏本番に自転車で約25分。さすがに水分がなくなる。俺はもう限界に近かった。それに、プールの後だったからか、まぶたも重い。でも、そんなに休んでいられない。俺は、烏龍茶を半分のむと、ラケットとボールを持って台に着いた。

「まずは、ラリーだな」

俺がそういうと、相馬も着いた。プール目的だったから、運動用の服装だから、やりやすい。俺がサーブをだせばレシーブを相馬が返す。それを何回も続けた。速さだつて、結構な速さだと思つ。

「やっぱ、卓球つてオモシレー！」

重くなつていたまぶたも、すぐに回復した。まさに、至福の時といつていいな。

「ふう……。」

30分も打ち続ければ、腕も疲れる。俺と相馬は早めの休憩を取つた。

「あれゝ？今日は貸切じゃないんだね」

「うん、先客発見！」

俺と相馬がペットボトルを飲んでしていると、入り口のところで声が聞

こえた。

「おい、ミカゲ！ けっこー可愛いぞ、あの娘たち！」

「うん？ ああ、そうだな」

「あれ？ 興味なし？」

「俺、あーゆうテンション苦手」

「ふん」

相馬は俺の相手をやめて、二人組みの女の子に近づいて行った。第三者目線で見ると、若者に絡むおやじってとこだな……。ハハッ、あんなのと友達なのか、俺って。

「ねえねえ、高校生？ 俺は埼玉相馬、高校2年！ よろしく」

「元氣いいね、貴方。私は今峰恭子（いまみねきょうこ）、ピチピチの高校1年生です」

右側の女の子がいった。ロングヘアがよく似合ってる。黒髪のおかげか、高校1年にしては俺よりも大人の風格らしさが出る。

「私は、斑原美沙（むらはらみさ）。恭子と、同じです」

左側の女の子も自己紹介をしていた。美沙と名乗った女の子も黒髪だが、ショートで、内側に丸まっている。絶対に高校生には見ええない。身長も美沙ちゃんの方が小さく、下手したら姉妹に見えてしまいかもしれない。

「でさつ、あの子は、誰なの？」

恭子さんが俺を指さして言った。目が合ったから、一応は会釈をしとく。

「あゝあれ？ あいつは俺の親友の、ミカゲ！ なんか漫画みてえな名前っしょ？ つーかさ、今日は卓球しに来たの？」 「うん 大会も近いからね。相馬くんはどここの高校なの？」

「三高。そのさつ。恭子ちゃんは？」

「私と美沙は三高の近くの女子高だよ。よろしく」

そーいや、近くに女子高あったな。確か、偏差値かなり高いんだっけ。俺は三人の会話に口をはさむことはしなかったが、心の中で口をはさんでいた。この行為って、かなりあやしいんだろーな。

「そうだっ！恭子ちゃん、一緒に打たない？俺、一応あいつとダブルスでインターハイでたんだよ」

「私はいいけど、美沙が・・・」

恭子さんが、美沙ちゃんを気にかけてながら言う。

「ああ、それなら大丈夫！美沙ちゃんはあいつが相手すつから」
相馬が俺を見ながら言った。

「じゃ、決定ね」

恭子さんも賛同し始めた。

「おい、俺はいいって言ってるぞ」

遂に俺も声を出した。

「ミカゲ、ちつとこい」

相馬が俺を呼んだ。そして、耳打ちのように、

「おい、こんな上玉ほつとくのかよ？それに、女子高つつたら、男子の免疫ができてねー。どうすんだよ？」

「・・・まあ、仕方がねえからいいぜ」

ほとんど脅しに近いと俺は感じた。と同時に、相馬の女に対する気持ちが痛いほどに分かった。こいつ、寂しいんだな。そんなに、恭子さんがほしーのか・・・。頑張れよ。

「じゃ、つーことで」

相馬は恭子さんと一番端の台についた。

「・・・・・・」

「・・・・・・」

気まずい。正直、この子、興味ないんだよね。美沙ちゃんも何も話さない。今までは、恭子さんがいたから喋れていたんだろう。

「美沙、さん？一応、自己紹介とききますね。俺は、喜多郷三影。よろしく」

「・・・斑原、美沙です。えつと・・・よろしくお願いします」

「あつ、うん。じゃ、打とうか」

「はい」

俺と美沙ちゃんは、何も話さないまま、時間がくるのを待った。

1時間30分後。体力も落ち、飲み物も尽き始めたから、解散することになった。

「じゃあ、アドレス交換タイム！」

外に出てすぐに、相馬が言い始めた。

「・・・馬鹿」

「は？何いつてんだよ、アドレス交換しないまま、さよならでいいのよ？」

「違いよ。今交換したらさよならになるだろ。だったら、この後にファミレスとかに行つて、そん時に交換したほうがよかつたろ」

「・・・」

相馬は何も発しない。今からファミレスにいこうなんていったらおかしい。つまり、今日は解散だ。恭子さんと美沙ちゃんは、ケータイを出して交換の準備をしてる。

「早くやつちやおう」

恭子さんの言葉で、石化していた相馬が復活をした。

「もう、時間も遅いからさ。送つてくよ。アドレスは、そん時でいいし。な、ミカゲ？」

「でも、私と美沙つて、家反対だよ？」

「マジ？だったら、美沙ちゃんはミカゲが送つてけよ」

は？何言つてんだこいつ。まじめに肩落としてもいい？

「頼むよ、俺、今から恭子ちゃんに告んだから。なっ？頼む！」

そーゆーことか。

「しゃーね。いいよ」

つーわけで、俺は美沙ちゃんと、相馬が恭子さんと帰ることになった。

「・・・」

「・・・」

まあ、前例でもあるとおり、会話が続かない。

「あ、あのー！」

美沙ちゃんが話しかけてきた。

ブーツ・ブーツ・。風呂から出たとき、ケータイがなつていた。相手は、美沙ちゃん。

『今日は、ありがとうございました！今度、デートしませんか？都合は、三影くんにあわせます』

短い文章だった。が、かなり積極的な文章とも思った。女って怖い。

「さあ〜て、どうしたものかねえ」

そうは言ったものの、結論がでないまま、ベットの誘惑にまけて・・・zzz。

(後書き)

えっとお。最後までありがとうございました！まさにベタベタな恋愛小説です。どうでしたか？こころゆづ恋愛は、好きでしょうか？
それでは、また！

『ありがとう』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1708n/>

奥手？積極的？ 貴女は、どっち？

2010年10月11日15時21分発行